

第5学年 社会科「米づくりのさかんな地域」～田植え、稲刈り体験～

1 題材について

社会科「米づくりのさかんな地域」の学習に関連させて、学校の近くの田んぼを借りて、田植え稲刈り体験を行った。お米がどのように作られるのかを、実際に体験を通して学ぶことで、食べ物への感謝の気持ちや食の大切さを感じること、また、農業に携わっておられる方の苦労や仕事の大変さ、やりがいについて知り、感謝の気持ちをもつことをねらいとした。

2 学習の実際

田植え、稲刈りについては、JA とっとり西部中央営農センターの方、伯仙校区の地域の方々にお世話になり、苗の植え方、稲の刈り方などを教えていただいた。

田植えは 6 月中旬に行った。苗の植え方を教えていただき、児童が一つひとつ手作業で苗を植えていった。2種類の苗を決められた場所に植えることで、伯仙小学校の校章の形が浮かび上がるように植えていった。

稲刈りは、10月上旬に行った。JA の方に鎌を使った稲の刈り方を教わり、手作業で稲を刈っていた。刈った稲は、紐で束ねて稲架にかけるところまで子どもたちが作業をした。収穫したお米は、家庭科の学習「食べて元気!ご飯とみそ汁」で調理し、みんなで食べることができた。また、学年行事で「親子でカレー作り」を企画し、子どもたちが収穫したお米を保護者の方にも食べてもらうことができた。

3 児童の様子

田植えは、初めて体験するという児童がほとんどで、裸足で田んぼに足を踏み入れた瞬間、これまで経験のない感触に、「わー!」と驚きの声があがった。足が思うように動かせない田んぼの中で、それでも、1つ1つ苗を田んぼに植えていくと、いつの間にか「こっちに苗をください。」「ぼくにも苗をください。」と一生懸命になり、次々と植えていく子どもたちであった。最後には「もっとやりたかった。」「来週もさせてください。」と、笑顔で話す様子が見られた。「腰が痛くなった。」という児童もあり、農業の仕事の大変さを実感した様子であった。

営農センターの方が考えてくださった田植えアートで、苗が大きくなるにつれ、伯仙小学校の校章の形が少しずつ浮かび上がってくるように見えた。夏休み明けには、はっきりと校章の形が見えるようになり、子どもたちも驚いていた。



稲刈りについても、ほとんどの子が初めての体験となった。JA の方に教わったように、稲をしっかりと握って、根元を鎌で刈り取り、協力して運ぶ様子が見られた。運んだ苗は紐で束ねて、稲架にかけるまで、友達と協力して一生懸命取り組む姿が見られた。



4 まとめ

田植え、稲刈りの体験を通して、子どもたちは、自分たちがお米をいただくまでに、農家の方がたくさんの時間と手間をかけ、苦勞をしてお米を作っておられることに気がつくことができた。また、ご飯が食べられることに感謝をして、「給食の残食を減らせるようにがんばろう。」と声をかける児童も見られた。

この学習を通して、食べ物への感謝の気持ちや食の大切さについて考えるだけでなく、農業への関心や理解を深めることができた。これからも給食指導などを通して、食の大切さについて指導していきたい。